

デジタル・ペダゴジー（デジタル時代・AI時代の教育学）—教育・学修支援者の役割を問い直す

参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 156名 アンケート提出数： 48件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・教育に各種デジタルツールの利点を活かしながら、学習者の視点で授業改善に取り組む必要性を理解することができました。
 - ・ヒューマンリテラシーという言葉。
 - ・これからの教育において、IT(デジタル)を活用することで、創造性ある教育が実現できること
 - ・単に現在の授業をオンラインやオンデマンド化するのではなく、教育の内容自体の転換点としてとらえる必要性があることがよく分かりました。
 - ・デジタル・ペダゴジーについて知るきっかけを得ました。
 - ・顔出しをしない学生についてのお話が興味深かったと思います。顔が見えなくても、教師がその場になくても、学ぶ価値がある授業には学生は積極的に参加し、自分なりに学び、成長していくことを、コロナ禍でオンデマンド授業を通して、実感しています。
 - ・デジタル講義の必要性
 - ・授業をする上での授業設計や問題意識の重要性。また、遠隔授業などでは学生を監視することが大事なのではなく、他の学生との交流を促すことが大事（そのために画面顔出しやブレイクアウトルームを利用する）
 - ・デジタル・ペダゴジーの概念と実践、コロナ禍で出現したハイフレックスなどデジタル技術を駆使した授業
 - ・授業はオンデマンドで行っている大学ですが、ブレイクアウトセッションにて顔出しで行うという点は本学でももっと進めていく必要があると思いました。レポートやLMSの利用方法等を図書館LAが担当するという点は興味深かったです。
 - ・大学における「学び」と「単位を修得すること」は別の層である事を再認識することが出来ました。
- あと、学習者へのアプローチは様々な方法があるかと思いますが、「力を与える」ことが大切である事も心に残りました。
- ・コロナ禍における大学での新しい授業方法がいろいろと生み出されているということ、ICT化がかなり進んだということがわかりました。
 - ・特に前半の講演では初めて聞く内容が多く、勉強になりました。
 - ・大学職員として案内いただき デジタル・ペダゴジーの言葉自体わからず聞きました。漂流する大学教育 新しいリテラシー 勉強になりました。
 - ・緊急避難的なオンライン授業から、本来のネット活用に移行するのは大変そうだと思います。
 - ・ハイフレックス授業には、専用の教室を準備したほうが良いこと。北米型は多数の専門スタッフに支えられていることの指摘は、もっと主張されても良い
 - ・コロナ禍で教育のデジタル化が急速に進んだが、デジタルペダゴジーの視点でこの急速なデジタル化の流れを

批判的に見る必要がある。授業を単にデジタルに置き換えるのではなく、新しい時代に向けて原理を再構築することが必要。

- ・ベースとなるのは学修に何が必要であるかを考え検討することであり、やはりそうだと納得できました。
- ハイフレックスでの支援者に必要なスキル（対面者と画面ごしの学生が均等に発言ができるような支援等）。
- ・Humanicsについて推し進めておられたのは、アメリカの Liberal Arts 出身者として、勇気が出た
 - ・ことばの定義は違いますが、本学では既にも実践しているが多いと感じた。
 - ・観念的とのお話がありましたが、IGT を介した教育事例といった種々具体例、情報源をご提示いただきとても参考になりました。
 - ・本学でも BYOD が進みつつありますが、教員や学生がその環境を使いこなせるか心配になってきました
 - ・いろいろ新しい試みをしているつもりでも、じつは「単なる置き換え」でしかないことに気づかされました。
 - ・教育のオンライン形式への置き換えではなく、今後の社会に必要な力を身に付けさせるための新たな授業設計が必要である。という点に感銘を受けました。
 - ・ペタゴジーという言葉自体に親しみがなかったため、関連した概念と一緒に知ることができ、大きな収穫だった。
 - ・デジタル・ペタゴジーについての理解を深めることができました。特に「ツールを使わないと決めること」が含まれていることは、新しい発見であり、自身の考えを改めるきっかけになりました。
 - ・情報リテラシーという言葉は初めて聞いたのは 20 数年前でした。その後の SNS の進歩は御存じの通り凄まじい限りです。更に対面での授業が当たり前だと思われていましたが、コロナウィルス禍でオンライン授業がメインとなりました。まさに本日のセミナーの内容はドンピシャという他ないと思います。
 - ・コロナ禍の中、突貫工事で体制をつくった事例の話は参考になりました。またオンライン用の新しい教室デザインについても示唆が大きかったと思います。
 - ・デジタル・ペタゴジーという用語にすら難解なイメージで身構えていましたが、杉森先生の平易な解説でその概念が分かりました。
 - ・デジタル・ペタゴジーでは、デジタル・ツールを使うことと同じくらい、使わないと決めることも重要、という考えは、まさに新しい発見でした。
 - ・ヒューマニクスという新しい学問分野とそこにおける新しい役割も、興味深いものでした。
- 更に、今までの置き換えではない形での、設計から考えていく DX とは、今まさに所属する大学できちんと考えなければならないことだ、と思います。
- ・杉森先生が、「異物」ではなく「媒介」となり、2 項対立ではなく共に作りあげていく、とおっしゃったことに大きく頷きました。
 - ・セミナーの中で、「支援する人を支援する人」、専門職をつなく役割（教職員）が必要という事が、現在の各大学で進めている対応において、必要となっていると感じた。
 - ・インターネット上のコミュニケーション技術手段を活用できれば、疫病による悪影響を克服できるかもしれない
 - ・大変勉強になりました。Robot-Proof（耐ロボット性）という言葉は初めて知り、AI 時代における人間固有の能力を育むことの重要性を感じる事ができました。
 - ・批判的教育学的視点からデジタルツールにアプローチすることが印象に残りました。
 - ・デジタルペタゴジーという今まで知らなかった考え方を知ることができたこと、また、杉森先生が現場で実施されている「ハイフレックスな教育には教室に環境を作ることも重要(タブレット端末を 100 台ほど準備した!)」も大変印象的でした。オンラインを活用して有効な授業を実施するには物理的な対応もやはり重要である点がよ

くわかりました。

・クリティカル・デジタル・ペタゴジー。デジタル化をただ単に手放して受け入れるのではなく、批判的に受け入れるという視点。

・ヒューマンクスの必要性

・多数ありますが、ツールを使って新しい授業を作るということではなく、学生中心のよりよい授業を作るためにツールを使うという点が再認識された。

・現在、すべての授業がハイフレックス型で履修できる大学院に通っています。今後はオンライン受講が主流になると思っていたので、オンライン講座の修了率が5%に留まるという事実には衝撃を受けました。

100台のiPadを駆使してOSCEを行った事例を伺い、驚愕しました。賞賛に値します。凄いです。

・支援に対する環境整備に関して、知識が必要なことを改めて感じました。

・ROBOT-PROOF 耐ロボット性として「ヒューマンクス」という学問分野を作ろうとしていること。ヒューマンクスの教育プログラムでは、3つのリテラシーと4つの認知的能力を伸ばすこととなる。

・これからの大学について、様々な視点での検討が必要であることを改めて認識できました。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

・学習環境データが集積されていくはずなので、その活用(DX)について、今後の展望など具体的なところの議論ができる機会があるとよいと思いました。

・初めて聞くには序盤はむづかしい内容も多かったかな、と感じました。

・医学部などのカリキュラムが決まっている場合にグループディスカッション等に入る余地がない場合の対応の方法

・学生がどれだけ習熟しているのか。特にオンデマンドでは、動画のすべてを見ていないため、従前の対面式に比べてどれだけ習熟しているのか不明。

・技術・データ・ヒューマンそれぞれをつなげるのは人にしかできない。その人=学習・教育支援者でもある…という論調で合っているでしょうか。これは拡大解釈でしょうか。

・疑問ではなく、予算や大学の方針等で、DXの進み方も大学によって多様だと思うので、多様な事例を知りたいと思いました。

・ヒューマンウェア、ハイフレックスの定義・意味がよくわからなかった(もっと知りたかった)。

・「日米差」につき質問しましたが、丁寧にご回答いただき感謝しております。私自身、米国の大学に十数年在籍し、ディプロマミルと呼ばれる下位大学も目の当たりにしてきました。一見、識字率は教育レベルをわかりやすく反映してくれますが、日本の子供は文字読み書きできても、適切に意味を把握し行使できない傾向が強いように感じています。これは、日本の子供の体格が良くなっても、運動ができなくなっている事実とある意味相補する結果に感じています。

私の言葉が足りず、申し訳なかったのですが、学ぶことに学生自身にも責任を持たせる米国の大学に対して、退学者を出させないといった大学システムに責任を求める傾向(風潮?)の日本では、教育システムそのものが形骸化するリスクにさらされているよう危機感を覚えています。

こうした知的なメタボリックシンドローム化が進行する中で、妙薬となる事例があればと思いました。

お答えの中にあつた「学習設計」ですが、やはり適宜処方箋を工夫する必要があり、種々遠隔授業も選択肢のひとつと解しました

・ご発表の中に、聞きなれない用語がいくつかあり不勉強に気づきました

・オンラインでの学生による授業評価はどのようなのでしょうか。例えば対面での授業評価、オンラインでの授業評価など分けて考えるべきでしょうか

・コロナ禍が収束してももう元には戻らないというお話がありました。大学の在り方は今後どうあるべきか、展望のようなものがあればまたの機会に聞きたいと思いました。

・『人工知能と人間』長尾真著(1992年)について、少し触れて頂きたいと思いました。

- ・ご翻訳された著書や「漂流する大学教育」、「ブレンディッド・ラーニングの衝撃」、その他の参考文献などでもう少し自分自身でも勉強をいたします。
- ・疑問ではありませんが、遠隔授業をはじめるときに、完璧を目指さない、とおっしゃっていましたが、完璧を目指してなくても、対面で5分で伝えられることを、オンデマンド動画を作成するために1時間近く費やすことはありました。
- ・デジタルペゴロジー自体も十分に理解できたとは言い切れず、また、理論の部分については概ね理解が追いついておりませんので、頂いた資料を見返したいと考えております。
- ・まだまだこれからの話かもしれないが、AIが教育あるいは教育支援の現場で実際にどのように活用されているのか、また、活用される可能性があるのか、その事例など。
- ・ヒューマニクスは21世紀型スキル、OECDキー・コンピテンシー、STEAM教育とは何が異なるのか
- ・疑問ではないのですが、よい授業の実践例を拝見したいと感じました。
- ・教育の現場で頻繁に使われる「〇〇力」「〇〇スキル」という表現を疑問視しています。リテラシーも然りで、それらの力が何をもちて獲得できたかと評価するのか、自分のなかで納得できていません。
- ・教育・学習支援者を支援する、インキュベーターとして、教員・職員・学生を支える入れ子構造を作る、の意味があまりよくわからなかった。単純にTA研修ではなく、TA研修ができる職員を教員が育成する？その教員は、どのように育成されるのか？
- 「ヒューマニクス」をテーマとした副専攻が、様々な学問分野からアプローチできるとのこと。最も相性のよい組み合わせは何か？「〇〇〇〇」×「ヒューマニクス」

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・学習者センターという考え方で授業設計、教材開発をしています。医療者教育において、学習者の興味関心を大事にしなが、学習到達目標とのギャップをどう埋めていくかを常に考えております。
- ・教職員、学生ともデジタル教材や環境を使いこなせている割合が多くはないと思いますので、やはりその点を皆が使えるようになるためのマニュアルや広州などが必須なのではないかと思ひます。
- ・大学教職員ではないので十分な回答はできませんが、そろそろ教育能力の評価を人事評価に取り入れる時期が来たのではと思ひます。
- ・授業を支えるスタッフが必要だと思ひます。学生にフィードバックをしたいと思ひますが、オンラインでは非常に時間がかかります。
- ・オンラインでの学習内容の双方向性の維持の方法
- ・コロナ禍前、海外留学プログラムで参加学生に最終プレゼンに動画制作を課したものがあって、動画をつくれる優劣で評価されるのは本旨ではないと改善を求めたことがあるのですが、若者にはYouTubeやInstagramが生活の中心になりつつある中で、画像や映像で意思伝えるというスキルが必須で、でも学生間の格差があり、これについては高校教育まででは教えていませんから、大学教育でこうしたスキルを伝えていく必要があるのではと思ひています
- ・教育は未来を生きる若者に捧げるものであり、我々大人が持つ過去の価値を押し付けるものではない。若者が主体的に考え判断したのであれば、それが望む結果でなくても彼らが前を向けるような支援をしていきたい。ただ、法を犯したり他人を傷つける事については、厳しく叱責すべきではあるが。
- ・講演の中で紹介された「こどもたちとともに、プレイショッップで感じ、つくるのだ。」という言葉や、参加者からの質問にあった学生の動機付けといったことに関して、教員と学生という二項対立のような構造を乗り越えることが重要ではないかと考えています。
- ・図書館で大学院生に学部生への相談に毎年お願いしていましたが 昨年よりお願いできていない状況です。もう少し踏み込んで相談できるよう 探っているところです。

・所属する学部では就職支援が専門スタッフに移行しつつある。良い傾向ではあるが遅れている感が否めない。(あくまで私個人の見方ですが) 本学は良くも悪くも各学部研究科それぞれの文化があり、何となくですが、よそ者不可侵の雰囲気があります。ですので横断的・全学的なFD活動に巻き込みにくい。各所属毎に、魅力ある指導者による働きかけや、地道な啓蒙活動が必要なのかもしれません。

・学部上級生でも、学部下級生向け科目のTA/SA/LAとして活躍すべきであると考えます。創価大学でも「データサイエンス入門」を全学必修化(各学期800人以上履修)します。反転授業を採用し、オンライン講義とオンライン演習をしたうえで、対面TAセッションにおけるディスカッション/データ分析演習を行います。TAを毎学期30名以上活用します。そのTA採用・育成の仕組みを現在設計中です。

他の科目でも、TA育成を教育の一つの柱に育てたいと考えています。オンデマンド授業を増やす大学では、このような流れに自然になると感じます。

・国立情報学研究所のサイバーシンポジウム、また、そのアーカイブに色々情報が紹介されています。

・教育・学修成果をどのように可視化するか、またそれを可視化するだけでなく、どう活用するかについての議論を深める必要があると感じています。

・大学図書館に勤めております。昨年度はコロナウィルス禍のためかなりの期間休館や開館時間の短縮を行いました。そのため図書館に来館できない学生向けにYOUTUBEで図書館紹介の動画を作成いたしました。大変な作業でしたが、今年度三密回避のため例年実施していた図書館ツアーの代替として高評価を得ております。

・YouTuberほどでないとしても動画編集などの力は教員として必須になっていくのではないかと思います。また事務職員もこれらを支援できるスキルが必要だと思いました。

・コロナ禍に起因する遠隔授業の汎用化に伴い、いわゆる従来の通信課程と通学課程の区分については、大学設置基準を含めてその根本的な概念から変更を迫られている時代になったと思います。

・オンラインでのPBLの実践例をご紹介いただき、大変参考になりました。デジタル化の流れで、OERの活用など、オンデマンド型の質の高い講義教材が大学間で共有されていくと、教員は個々の学生に対応したファシリテーターとしての役割が重視されていくのではないかと感じました。

・フィードバックの重要性はとても感じています。顔が見えないオンデマンドだからこそ、理解度をはかるために学生とのやりとりを通してフィードバックを丁寧にしたいと思っています。

・私は業務委託の立場で大学図書館に勤務しておりますが、専門家としての先生方とエンドユーザの学生をつなぐ立場として、杉森先生も仰っていた通り「ジェネラルな専門家」としてのICTスキルや、各部署との調整力が必要なスキルと考えます。

・現在の課題への対応はもちろんのこと、未来を見据えた探究的な在り方が理想だと考える。そのためには先を見据えたチャレンジングな精神が必要であり、千葉大学が「アカデミック・リンク」というコンセプトを立ち上げるだけでなく、コンセプトに基づきALPSプログラムやオンライン学習支援などについて実践的に取り組んでいる点は特筆に値すると考えている。

・大学教員は主に研究・教育・社会貢献(学内も含む)が主要な業務であり業績の対象であるが、教育・学習支援に重点を置いた役職もしくは契約が必要ではないかと感じている。

・授業を行う最低限のスキルを学ぶ機会が必要であると感じる。多種多様な人材が教員として求められる中で、教育の質を担保する重要性が増すと考えます。

・学修支援の体制を批判的に再構築する意義はよく理解できました。ただ一方で、伝達型の授業も必要な場合があると思っています。

4. オンラインセミナーを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・自身の名前を所属先もつけて変更しようと思いましたが、できませんでした。質問するときに少し失礼な感じがしました。
- ・資料が事前に読めるほうが良いかなと思いました。
- ・仕事の合間に移動なしで参加できるので、今後も参加したい
- ・大変勉強になりました。
- ・オンラインセミナーなので職場にいながら受講でき、とても分かりやすく、勉強になりました。
- ・講演がやや駆け足だったように感じます。自身の不勉強に起因する部分も多くありますが、もう少し時間に余裕があるとよかったですのではないかと思います。
- ・日程等で参加が難しいセミナーもあるので、録画配信を聞く選択肢もあれば有難いです。
- ・遅れて申し込みましたが、丁寧に対応して頂き、また、司会進行も万全で感服しました。
- ・まったくないです。これまで興味を持ちつつも遠方のため、テーマによって相当厳選し出張を願い出なければ参加できなかったのが、このように参加できて有り難く思っています。
- ・今回は途中で休憩をいれていただきましたが、90分を通してオンライン授業を受けるのはけっこうストレスがかかると感じています。学生は1日に何コマもオンラインで授業を受けるスタイルは相当きついと思います。
- ・全く不便さを感じません。
- ・できれば、ビデオの内容がもう少し詳しくなればいいです
- ・オンラインで開催していただき、ありがとうございます。特に不便はございません。
- ・質問を待つ場面がございましたので、事前に質問を受け付けておきそれに回答するスタイルもよいかと考えました。
- ・特にありませんが、強いて挙げるなら Q&A。チャット入力の手間を考えると、発言して質問をしたい受講者も一定数いるのではないかと思います。やはりケースバイケースでしょうか。
- ・特にございません。可能であればご講演開始前に資料をいただけるとありがたいです。
- ・支障なく受講できました。

5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・大変興味深く拝聴しました。ひとつひとつ、好事例を積み重ねてまいりたいと改めて思います。
- ・ありがとうございました。
- ・杉森先生の真摯で誠実なお人柄が感じられるご講演でした。
- ・本日授業が入っており、途中からの参加となりました。大変興味深い内容でしたので、是非、前半部分も拝見したいと思うのですが、オンデマンドの配信はされますか？
- ・これからの教育の在り方について、改めて考える、新しい視点を得られる良い機会をいただいたと思います。
- ・いつも興味深い内容のセミナーをありがとうございます。大学教職員以外にも開いてくださることを感謝いたします。
- ・コロナ禍2年目でオンライン授業について知見と経験を得た上での本セミナーはタイムリーなものでした。ありがとうございました。

・学生の IT スキルが今までなかなか向上しなかったのですが、コロナ禍でパソコンを使わなければ進級や卒業ができなくなるということ、自分のパソコンを持たなければならなくなったことでかなり ICT 化が進みました。そのなかで最先端の取り組みを見せていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。

・教員のご苦労がわかりました。

・時間の区切りがよく、スピードも心地よい速さだったので、集中して聞くことができました。ありがとうございます。

・私自身の経験不足・予備知識不足によりついていけない箇所もありました。期間限定でもいいので復習配信があるとありがたいです。”

・過去のセミナーを含め、質の高い講演が多いので、本としてまとめて出版してほしい。

・今日の発表のアーカイブ化にも興味がありますが、一部紹介された杉森先生の蔵書を「本棚」みたいな形で紹介していただけたらなあと思いました。

・ALPS セミナーではいつも自分の周囲にはない話題が聞けて勉強になります。ありがとうございます。

・オンライン授業がこれからのメインとなってくるとすれば、1 大学ですべてのカリキュラムを揃える必要はなくなると感じています。各大学が授業を共有するようになれば大学の連携、ひいては大学の合併などに進むのではないかと未来について考えながら聴講しました。ありがとうございました。

・杉森公一先生のお考えをもっと拝聴したいと思いました。

・聴きやすいご説明と進行のセミナーで、大変勉強になりました。

・書籍もいろいろとご紹介いただき、有難うございました。”

・サマリーだけでも良いと思いますので、セミナー当日のご講演内容の一部をオンデマンド配信していただくと、時間帯が合わずに申し込みができなかった方も拝聴できてありがたいと思いました。

・初めて ALPS セミナーを受講しましたが、次回のセミナーも受講してみたいと思いました。

・「オンライン授業でさぼる学生が出るのでは？学習効果はどのように測定するか？」という懸念に対して、「学生と学生同士は顔を見せた方がよいが、学生が教員に顔を見せる必要はない（オンデマンドでもよい）」、「学生がきちんとオンライン授業を聞いているか？（顔を見せているか？）を測定する必要があるのか？」というお言葉から、授業設計と評価について根本的に変化する時代が来ていることを感じました。難解な箇所もございましたが、杉森先生に熱を静かに感じる大変有意義な研修でした。誠にありがとうございました。

物理的、時間的なハードルも下がりますので、これからも集合形式と併用するなどウェビナー形式の継続を希望します。

・society 5.0 の時代を迎え、学修の質を上げるためには ICT 活用に関する専門知識を持った教職員が必要である（資格制度があるとよい）とともに、教職員全体のレベルアップも行っていく必要があると実感しました。

本日は、貴重なご講演誠にありがとうございました。

・SDGs と大学教育に関わる資料を探していて『ROBOT-PROOF』を拝読しました。自説を支えてくれる内容だったので、本当にありがたかったです。本日も杉森先生のご講演を拝聴できて、大変勉強になりました。ありがとうございます。

・大変興味深く受講できました。ありがとうございました。

事務職員です。普段の教室環境を整える業務について、なかなかやる気がわきませんでした。

自身の学習を深め、予算があれば、ハイフレックス型授業の実現など、自分が楽しみながらできそうなことがあるように思いました。

